

(3) 地域防災と地域医療の連携に向けて：大学の役割と責任

久保 敦士

保健医療学部救急救命学科

本研究の目的は、地域の一部である大学が、地域医療や地域防災にどのように貢献できるかを検討することである。

本学は、オンライン教育などで利用するテクノロジーを活用して、地域住民への貢献や学生に実践的な医療技術やチーム医療の重要性を学ばせる場を提供することを目指している。また、地域の課題解決や地域づくりに取り組むために、地域の主体性を尊重し、大学のコーディネーション機能を強化することを考えている。

本研究では、これらの取組みの効果や課題を分析し、地域医療や地域防災の活性化における大学の役割と責任を明らかにする。

(4) 災害発生時の地域保健活動から考える平常時の備え

大倉 和子

看護学部看護学科

南丹圏域においては、京都府南丹保健所を事務局として管内医療機関・関係団体が災害医療体制整備に取り組んでいる。本学においても、南丹市と「大規模災害時における避難所利用に関する協定書」を締結しており、災害発生時の対応は喫緊の課題となっている。

平成30年7月に発生した西日本豪雨災害を振り返ると、隣接の中丹圏域において土砂災害による死者4名と甚大な被害が出た。当時、管轄保健所において、保健師の健康相談活動の総括にあたり、京都府内保健所からの支援を受け17日間で延べ73名の保健師による911件の家庭訪問活動を行った。健康相談結果をとりまとめ、医療・保健・福祉等に関する健康課題を明らかにし、平常時の備えについて考察したので報告する。なお、本学の平常時の体制構築にむけて、日本看護系大学協議会が行った災害の備えに関するアンケート調査結果についても紹介する。